

コンビニエンスストア・セーフティステーション活動

兵庫県コンビニエンスストア防犯対策協議会 (CVS活動)

(会長：荒川法行氏、加盟数：10社 1,678店舗、事務所所在地：神戸市中央区、ひょうご地域安全まちづくり推進協議会会員)

まちの安全・安心拠点として地域に貢献

兵庫県コンビニエンスストア防犯対策協議会は、兵庫県下のコンビニエンスストアの10社(ココストア、九九プラス、サークルKサンクス、セブン-イレブン・ジャパン、デイリーヤマザキ、ハートイン、ファミリーマート、ポプラ、ミニストップ、ローソン)がチェーンの垣根を越えて社会貢献活動を行うべく、一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会に加盟し、セーフティステーション活動に取り組んでいる。

【セーフティステーション活動内容】

- 女性・子どもの駆け込み対応
- 高齢者の保護対応
- 自主防犯体制の強化(防犯カメラ・カラーボールの設置)
- 警察と連携した強盗訓練の実施、防犯会議への出席
- 青少年環境の健全化への取り組み
(深夜時間帯での帰宅促し、酒類・タバコ・成人向け雑誌販売時の年齢確認)
- 「体験学習」の受け入れ(地域の小中学校等の生徒に、社会のルールやマナーの大切さなどを学ぶ場を提供)
- 災害時の帰宅困難者に対する支援等



【コンビニ強盗防犯訓練状況】

また、コンビニエンスストアのATM利用者の振り込み詐欺の被害を防止するため、被害の特徴である「シルバー・携帯・ATM」に対する目配り・気配りにより、対策に努めている。

日々進化し続けるコンビニエンスストアは、24時間営業の特色を生かし、「まちの安全・安心拠点」として活動を推進している。

編集後記

伊丹市昆陽泉町を訪れたのは、1月のしんと雪の降る寒い日でしたが、泉町シニアクラブの方々と小学生との楽しい掛け合いに、心がほっこり温まりました。

幼い頃から地域の方とふれあい、見守られて育つ子どもたちは、この温かさの中で多くのことを学んでいるのではないのでしょうか。

また、今回注目した二つの「拠点」は、防犯活動の拠点であると同時に、情報収集や交流、避難場所と、色々な役割を兼ね備えています。それらをどう生かすかは利用する人次第ですが、二見地域安全センターのように、住民憩いの場となり、連携した防犯活動が広がっていくことを祈ります。

一回防犯必宅

子どもが被害者となる、悲惨な事件が後を絶ちません。子どもを犯罪から守るためには、地域ぐるみの見守り活動と、繰り返しの防犯指導がとて重要で。

みなさんの力で安全対策に取り組みましょう。

詳しくは、協議会ホームページをご覧ください。

(ホームページURLは下記に記載)



マモリン

発行：ひょうご地域安全まちづくり推進協議会事務局

〒650-8567

神戸市中央区下山手通5-10-1 兵庫県地域安全課内

電話・FAX:078-362-1071

e-mail:hyogo@bouhan-suishin.gr.jp

URL:http://hyogo.bouhan-suishin.gr.jp

ひょうご地域安全まちづくり推進協議会とは

犯罪の防止その他安全で快適な暮らしを目指すための県民運動を推進し、犯罪のない安全で安心な兵庫県を実現するため、地域団体をはじめ、事業者や行政機関等で構成された協議会です。

このマモリンレポートは、当協議会の会員である兵庫県遊技業協同組合の支援を得て作成しました。

ひろげよう地域安全まちづくり

マモリンレポート



知識・技術・マンパワーで安全安心なまちづくり

～ 泉町シニアクラブ (伊丹市) ～



地域安全センターを拠点に行う地域ぐるみの防犯活動

～ 二見地域安全センター運営委員会 (明石市) ～



マモリンレポートとは

- マモリンレポートでは、県民のみなさんによる地域安全まちづくり活動の参考となるよう、まちづくり防犯グループ等の特徴的な取組を紹介します。
- 「マモリン」とは、ひょうご地域安全まちづくり推進協議会のシンボルキャラクターです。



マモリン



知識・技術・マンパワーで 安全安心なまちづくり

～ 泉町シニアクラブ (伊丹市) ～

高齢者のパワーで地域の連帯と活性化を図る

例に漏れず少子高齢化が進む伊丹市昆陽泉町では、地区内に住む60歳以上の定年を迎えた高齢者が、同年代メンバーと親睦を深めながら、各々の知識・技術・マンパワーを活かして、活動を展開している。

毎日小学校からのメールで下校時間を把握し、地区内で車の通りや死角の多い場所3箇所に分かれて下校時の子どもの見守り活動を行うほか、地域の清掃活動、一人暮らしの高齢者の庭の剪定等のボランティアから、ハイキングや史跡巡りなどの親睦活動まで盛んに行っている。

これらの活動への参加状況は、個人参加表により各会員に配布されており、他のメンバーの参加状況を知ること、参加意欲を高める工夫もしている。



子どもと高齢者の接点をつくる『課外授業』

泉町シニアクラブでは、子どもと高齢者の接点を作ろうと、地元摂陽小学校



3年生を対象とした課外授業「藁の歴史・用途・藁織り体験・昔の話を聞く会」を8年続けている。

この課外授業に加え、餅つき大会などのイベントにも積極的に参加し交流を図っており、泉町シニアクラブの面々が、ごく自然に子どもたちと言葉を交わしていることにも納得である。



代表 川元 忠司さんの声

泉町シニアクラブの良い点は、会員間に利害関係がなく、気を遣わずにいられるところだと思います。活動への参加はあくまで個人の自主性に任せていますが、仲間意識から多くの者が積極的に参加してくれて、現在まで活動出来ています。

今後もみんなで「優しく・楽しく・元気に」活動を続けていきたいです。



グループの紹介 泉町シニアクラブ

平成16年に泉町自治会会長・顧問が発起人となり、60～70歳を対象とした「ロクマル会」を発足した。その後、平成17年から名称を「泉町シニアクラブ」と定め、年齢の上限をなくし、組織化して、一層の活動の強化に取り組んでおり、平成23年度には伊丹市教育委員会から「ふれあい教育賞」を受賞するなど、地域の安全に貢献している。

平成24年度ひょうご地域安全まちづくり活動賞受賞。



地域安全センターを拠点に行う 地域ぐるみの防犯活動

～ 二見地域安全センター運営委員会 (明石市) ～

地域安全センターの和から広がる地域の和



山陽電鉄西二見駅のやや東側にある「二見地域安全センター」は、平成20年3月に設立され、防犯活動の拠点として、地域住民により運営・管理されている。中に入ると、まず目に飛び込んで来るのは、会員一人一人の笑顔と活動状況の写真。白い画用紙にびっしりと貼られた写真からは、地域住民の防犯意識の高さが伺える。

この地域安全センターを活動拠点として、「安全・維持・継続・収集・発信・環境美化」の6つの活動方針のもと、自治会、防犯協会、地区愛護協会等の地域住民が、平日夕方から夜間にかけて約5名が地域安全センターに集まり警戒する。

また、無人駅である西二見駅周辺は徒歩による防犯パトロールを行い、毎月1回は環境美化活動にも取り組んでいる。



青色防犯パトロール車により、二見地域全体をパトロール

平成23年に地元のため池で小学生が命を落とす事故が発生したことを機に、見守り活動をさらに強化するため、青色防犯パトロール車を導入した。

スクールガードと連携した子どもの見守り活動や、ひたたくり被害防止等のため、広い二見地区の東西南北隅々までパトロールを行っている。



会長 小山 泰茂さんの声

二見地域安全センターは、活動拠点であると共に、会員同士の情報交換の場でもあります。防犯活動には、住民の協力と参加が欠かせませんが、持続可能な形であれば決して長続きはしません。

和める雰囲気づくりを心がけ、参加した人たちにその日一日が有意義だったと思ってもらえることをこれからも大切にしていきたいです。



藤田文夫さん 小山泰茂さん 原田和彦さん

グループの紹介 二見地域安全センター運営委員会

西二見駅前地区は、土地区画整理事業により宅地が広がり、大型店舗の進出、無人駅の開設などにより犯罪防止の機運が高まってきたことから、二見町連合自治協議会が中心となり、防犯協会、二見地区愛護協議会、PTA等関係機関に対し働きかけて、住民管理の「二見地域安全センター」を設立し、同センターを活動拠点として、地域安全まちづくり活動を展開している。

平成23年度ひょうご地域安全まちづくり活動賞受賞。

